

こみ焼却灰を溶融固化

日本環境保全が装置販売

日本環境保全（茨城県牛久市、古渡周作社長、02・98・74・4351）は、却灰の溶融固化装置の実証試験を完了、本格販売する。大手重工業メーカーなどの同種装置に比べ小型で、安価

な重油を利用できるため運転費用が安い。価格は毎時一トを処理する装置で八億一十二億円程度。初年度に五―八基の受注を目指す。

装置は焼却灰に重油バーナーの火炎を当てて溶かし、水槽に落としてガラス状の固形粒子にする仕組みで、茨城大学と共同開発した。実証試験では、百日間の連続運転ができたほか、排気中のダイオキシン類濃度が一立方センチあたり〇・一九ナ（ナは十億分の一）と二〇〇二年規制値の同一―十ナを大きく下回ることを確認した。

ご注意

過去に当社が原情報を著作した新聞・雑誌等の記事は、画面上の閲覧のみが可能です。これら記事は過去に公開されたものですが、現状で利用する際には著作権等が発生する場合があります。利用をご検討の方は当社にご相談願います。

日本環境保全株式会社

引用) 1999年5月27日
日本経済新聞
朝刊 (p.17)